

2019年9月期 第2四半期 決算補足説明資料

.....

株式会社フィックスターズ
(東証一部3687)

2019年5月14日



本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があります。あることをご承知おきください。

目次

1. 会社紹介
2. 2019年9月期 第2四半期決算説明
3. 2019年9月期 通期業績予想

目次

1. 会社紹介

2. 2019年9月期 第2四半期決算説明

3. 2019年9月期 通期業績予想

会社概要

- フィックスターズは、大量データの高速処理を並列処理やソフトウェア最適化等により実現する、高速化のエキスパート集団です。



概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー18階
設立	2002年8月
上場区分	東証一部 (証券コード：3687)
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,176万円 (2019年3月現在)
社員数 (連結)	189名 (2019年3月現在)

グループ体制

株式会社フィックスターズ

Fixstars Solutions, Inc.

- 当社完全子会社
- 米国での営業及び開発を担当

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

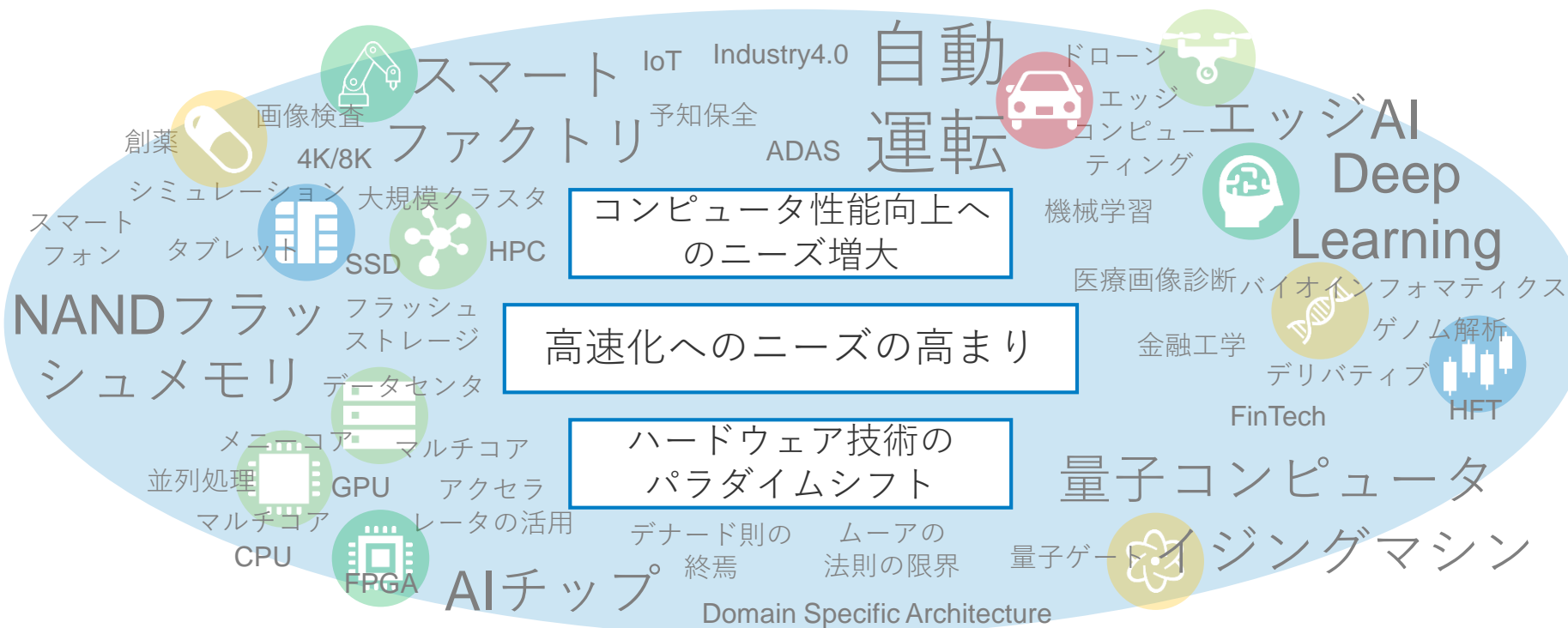
- 株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV (当社持分：66.6%)
- 自動運转向けソフトウェア開発に特化

主なお客様

- 東芝メモリ株式会社
- 株式会社ネクスティ エレクトロニクス
- 株式会社日立製作所
- キヤノン株式会社

事業背景

- コンピュータ性能向上へのニーズに引き続き、ハードウェア技術のパラダイムシフトが起きています。
- ハードウェアの進化を活かし、その性能を極限まで引き出すソフトウェア高速化の重要性が増大しています。



- ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスと共に成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2006年 12月	PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ
2009年 12月	「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、(株)ネクスティ エレクトロニクスと合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
10月	量子コンピュータ向けミドルウェアの研究開発プロジェクト「イジングマシン共通ソフトウェア基盤の研究開発」がNEDOに採択
12月	AIチップ向け開発プラットフォーム構築を目指す「エッジビジョンAIを超軽量化し短TATで実装する技術の研究開発」がNEDOに採択

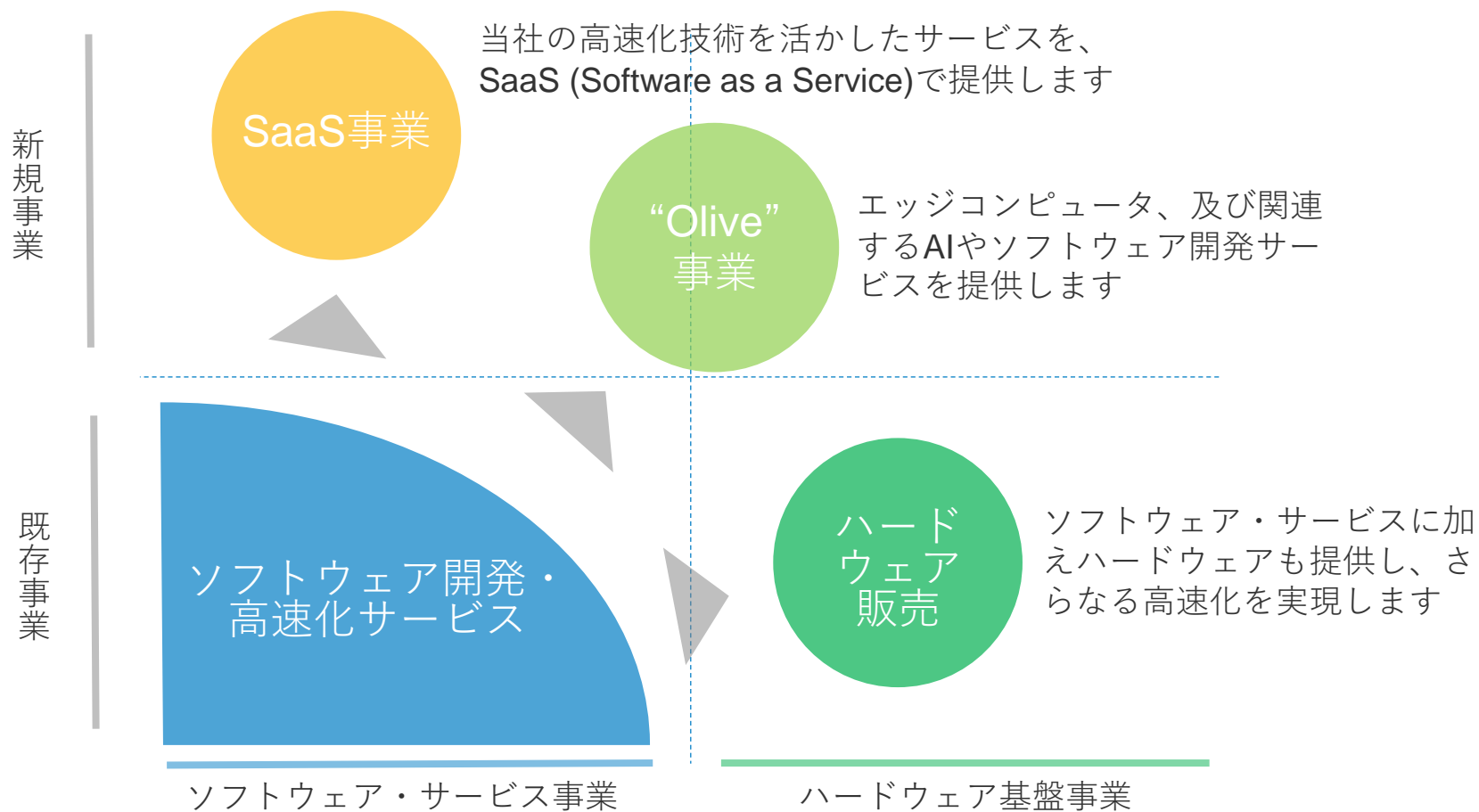
コアコンピタンス

- 高度なソフトウェア技術とそれを自在に操る多彩な人材が、他に類のないソフトウェア開発・高速化サービスを実現しています。
- 加えて、当社の技術力と人材を篤く信頼してくださるお客様と共に、長期安定的に最先端技術課題に取り組めることもまた、当社の強みです。



事業概観

- ソフトウェア開発・高速化サービスで培った知見を軸に、関連ハードウェアの販売や新規事業の育成に取り組んでいます。



ソフトウェア開発・高速化サービス

- お客様のソースコードをご提供いただき、ソフトウェアの最適化やアルゴリズムの改良を行い高速化したコードをお返しします。



オリジナルソースコードのご提供

当社

高速化したソースコード

お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- ボトルネックの特定
- ハードウェアへの最適化
- アルゴリズムの改良・開発
- レポート作成
- レポートやコードへのQ&A
- 実製品への組み込み支援

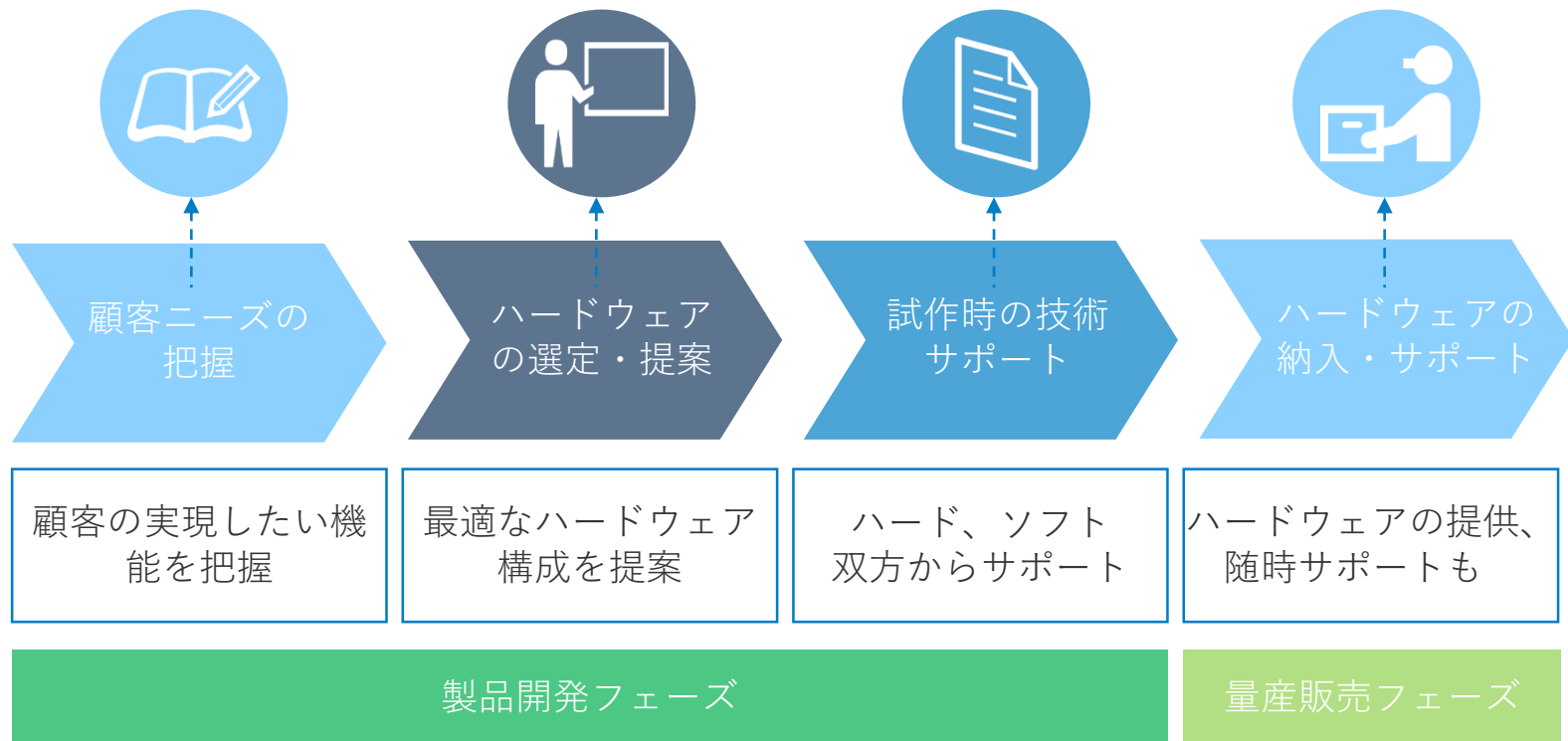
ソフトウェア開発・高速化サービス事業領域

- 大量データの高速処理が求められる様々な領域で事業を展開しています。
- 自動運転を中心に各分野とも旺盛な引き合いがある一方、高速化サービスを提供できる優秀なエンジニアの確保が課題となっています。



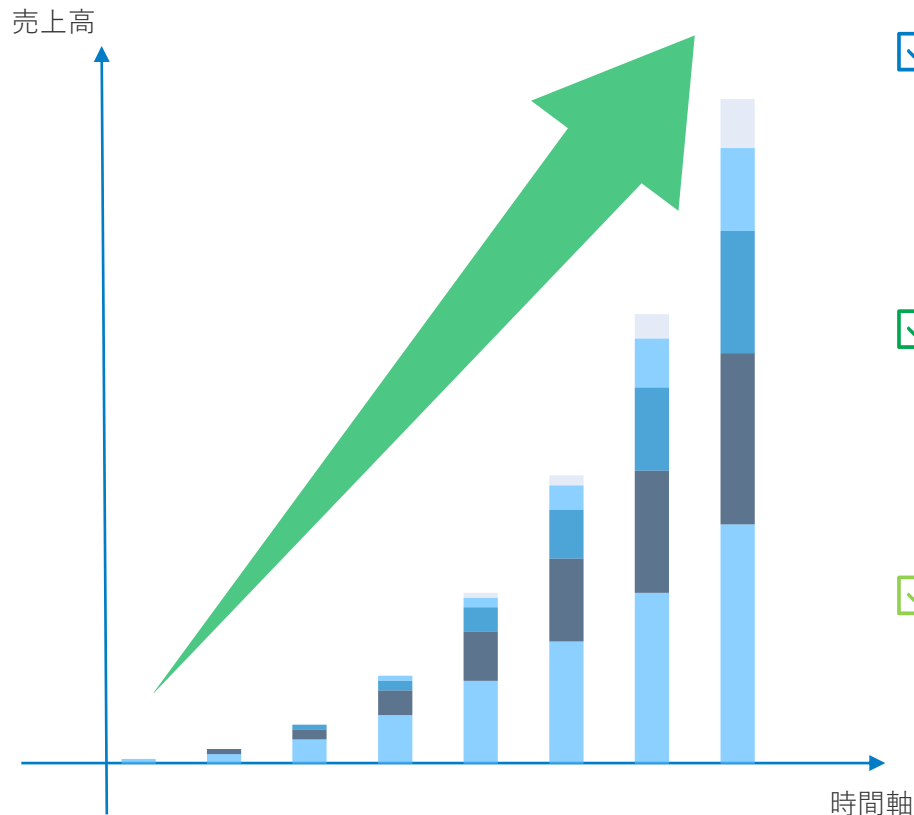
ハードウェア基盤事業

- ソフトウェア・サービスに加え最適なハードウェアも選定・提供することで、さらなる高速化を実現します。
- 顧客製品に組み込まれるハードウェアを顧客製品の量産入り後も継続的に提供することで、製品の売上拡大に合わせ当社収益も増加します。



SaaS事業概観

- ソフトウェア開発・高速サービスで培った当社的高速化技術を活かし、複数のSaaS事業を立ち上げていきます。
- 売上が積み上げ式に増加していくストック型ビジネスの構築を目指します。



☑ “Sleek”事業

プロジェクトの現状を効率的に把握することによって、ソフトウェア品質向上・開発速度向上・コスト低減を実現するSaaSサービス“Sleek”を提供します。

☑ 量子コンピュータ事業

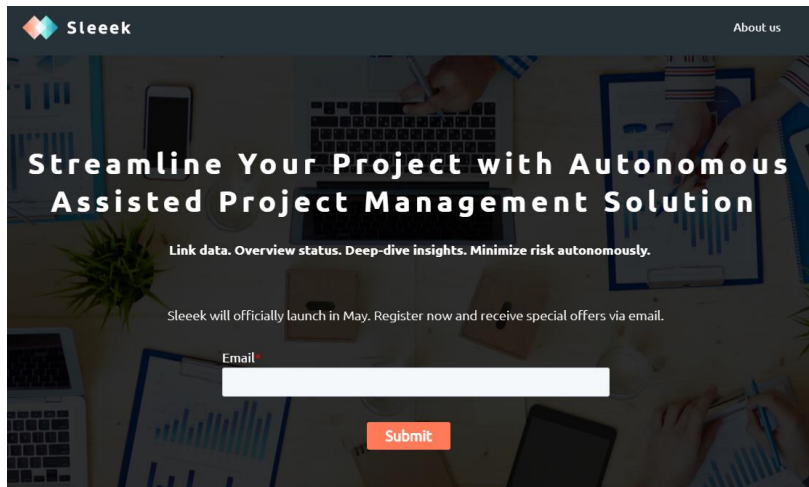
量子力学等の特別な知識を持たないエンジニアでも量子コンピュータを活用できるような、共通ミドルウェアを提供します。

☑ “GENESIS”事業

自動運転やFA等、様々な分野で今後利用拡大が予想されるAIシステムの開発プラットフォーム“GENESIS”を提供します。

“Sleek”事業

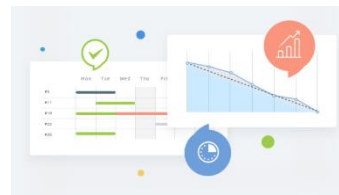
- プロジェクトの現状を効率的に把握することによって、ソフトウェア品質向上・開発速度向上・コスト低減を実現するSaaSサービス“Sleek”を提供します。



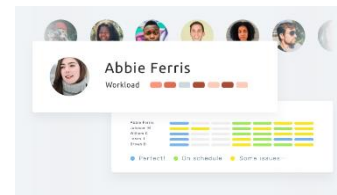
- ☑ プロジェクト全体の進捗を定量的・定性的に把握するために情報を見える化
- ☑ ソースコード等レポジトリの全情報を元に、コードレビューに役立つAIならではの情報を提供
- ☑ 当初から米国市場を主マーケットとし、英語でのサービスローンチを予定
- ☑ パブリックβを無償公開（6月予定）し、Product Market Fit を検証。その後来期中の有料化を予定



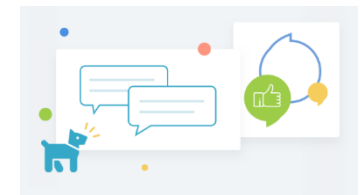
プロジェクトの見える化



進捗管理



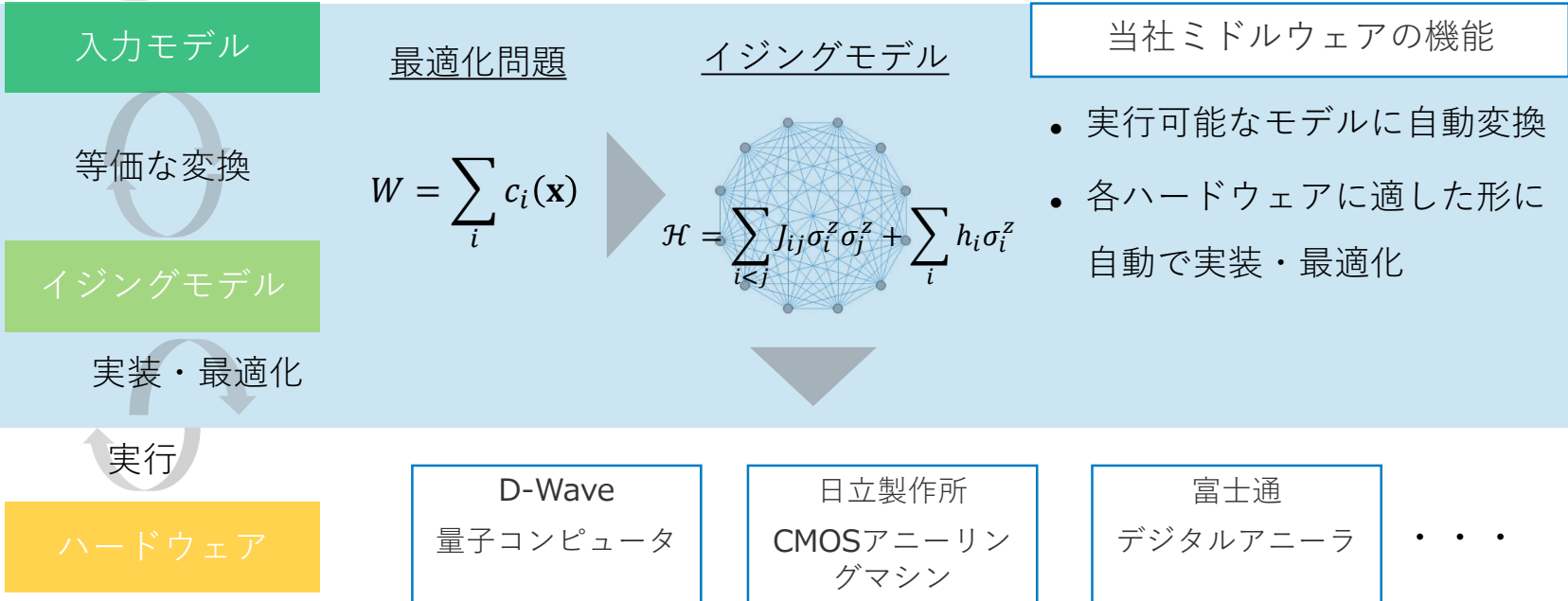
メンバ管理



自動コードレビュー、サジェスト

量子コンピュータ事業

- 量子力学等の特別な知識を持たないエンジニアでも量子コンピュータを活用できるような、共通ミドルウェアを提供します。



最適化問題

イジングモデル

当社ミドルウェアの機能

- 実行可能なモデルに自動変換
- 各ハードウェアに適した形に自動で実装・最適化

$$W = \sum_i c_i(\mathbf{x})$$

$$\mathcal{H} = \sum_{i<j} J_{ij} \sigma_i^z \sigma_j^z + \sum_i h_i \sigma_i^z$$

D-Wave
量子コンピュータ

日立製作所
CMOSアニーリングマシン

富士通
デジタルアニーラ

“GENESIS”事業

- 自動運転やFA等、様々な分野で今後利用拡大が予想されるAIシステムの開発プラットフォームを提供します。



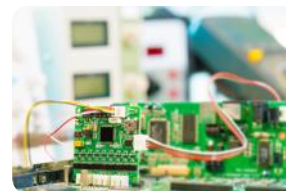
コンピューショナル
フォトグラフィ



ADAS/自動運転/自動飛行



医療画像診断



外観検査

高度なAIを製品に搭載したいが・・・

適切なプロセッサの選定や高難度のソフトウェア開発に時間がかかる

量産時に使用するような安価なプロセッサに簡単に移行できない

そもそも要件を満たすプロセッサが世の中に存在しない

高度なビジョンAIを必要とする製品の開発者

適切なAIシステムを容易に選択・開発できる
プラットフォームが必要

GENESIS

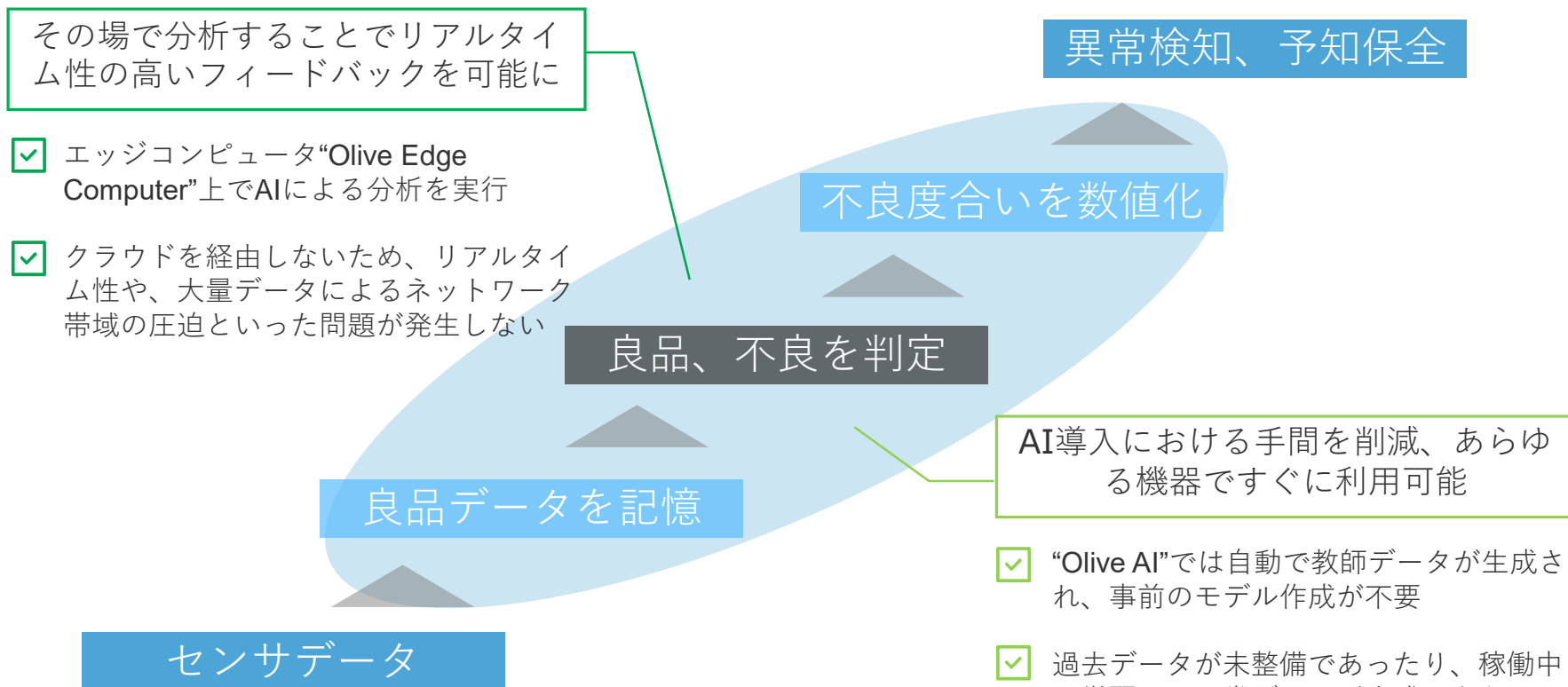
各種プロセッサでの
ベンチマークレポ
ート自動作成

各種プロセッサへの
最適化コンパイル

ASIC/SoC化サービス

“Olive”事業

- “Olive”は、センサ直結の高性能エッジコンピュータ”Olive Edge Computer”と、その上で動く”Olive AI”から成るファクトリーIoT向けソリューションです。
- リアルタイムデータ処理やAI導入における課題を解決し、異常検知による不良品の未然防止や、予知保全による機器の稼働率向上を実現します。



目次

1. 会社紹介
2. 2019年9月期 第2四半期決算説明
3. 2019年9月期 通期業績予想

2019年9月期 第2四半期決算発表サマリ

■ 全体

■ ハードウェアの大型スポット案件により大幅増収増益を達成

- 売上高： **3,622百万円**（前年同期比 **+52.9%**）
- 営業利益： **676百万円**（前年同期比 **+40.1%**）

■ 上期業績好調を受け、通期業績予想を修正（4/24発表済）

■ セグメント

■ ソフトウェア・サービス

- 自動運転関連を中心に高速化事業が安定成長
- SaaS事業等の新規事業向け研究開発に積極投資

■ ハードウェア基盤

- 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- 画像処理向けストレージ・サーバの大型スポット案件が、2Q累計で約7億円の売上となり、大幅増収に大きく貢献

決算概要：損益計算書

- ハードウェアの大型スポット案件により大幅増収増益を達成
- 利益率の低いハードウェア基盤事業の売上比率増加のため利益率は低下

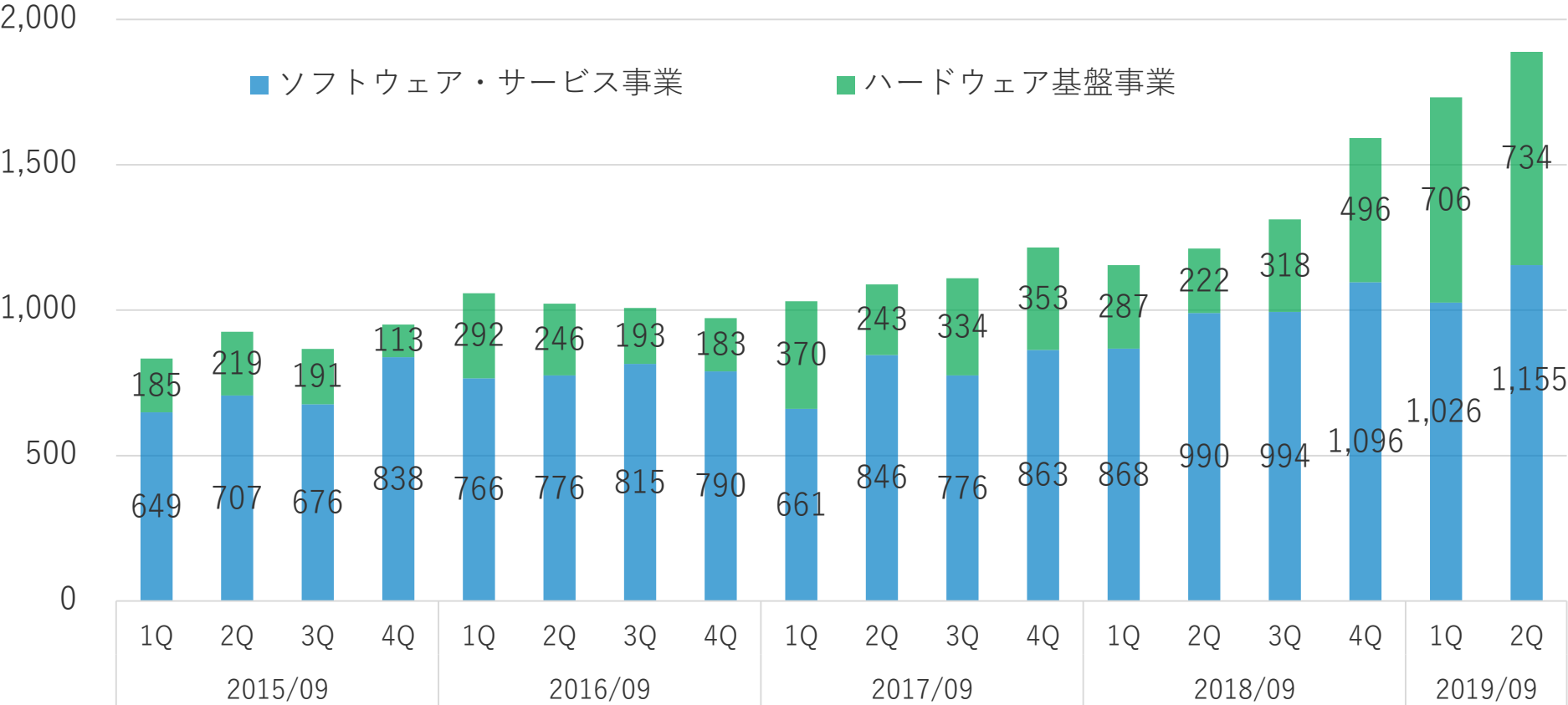
(単位：百万円)

項目	前第2 四半期累計	当第2 四半期累計	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	通期 業績予想
売上高	2,369	3,622	+1,253	+52.9%	6,880
営業利益	483	676	+193	+40.1%	1,226
売上高 営業利益率	20.4%	18.7%	▲1.7pt	-	17.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	353	452	+98	+27.9%	807
売上高 当期純利益率	14.9%	12.5%	▲2.4pt	-	11.7%

業績：売上高

■ ソフトウェア・サービス事業の安定拡大に加え、ハードウェア基盤事業の大型スポット案件が1Qに続き2Qでも大きく貢献

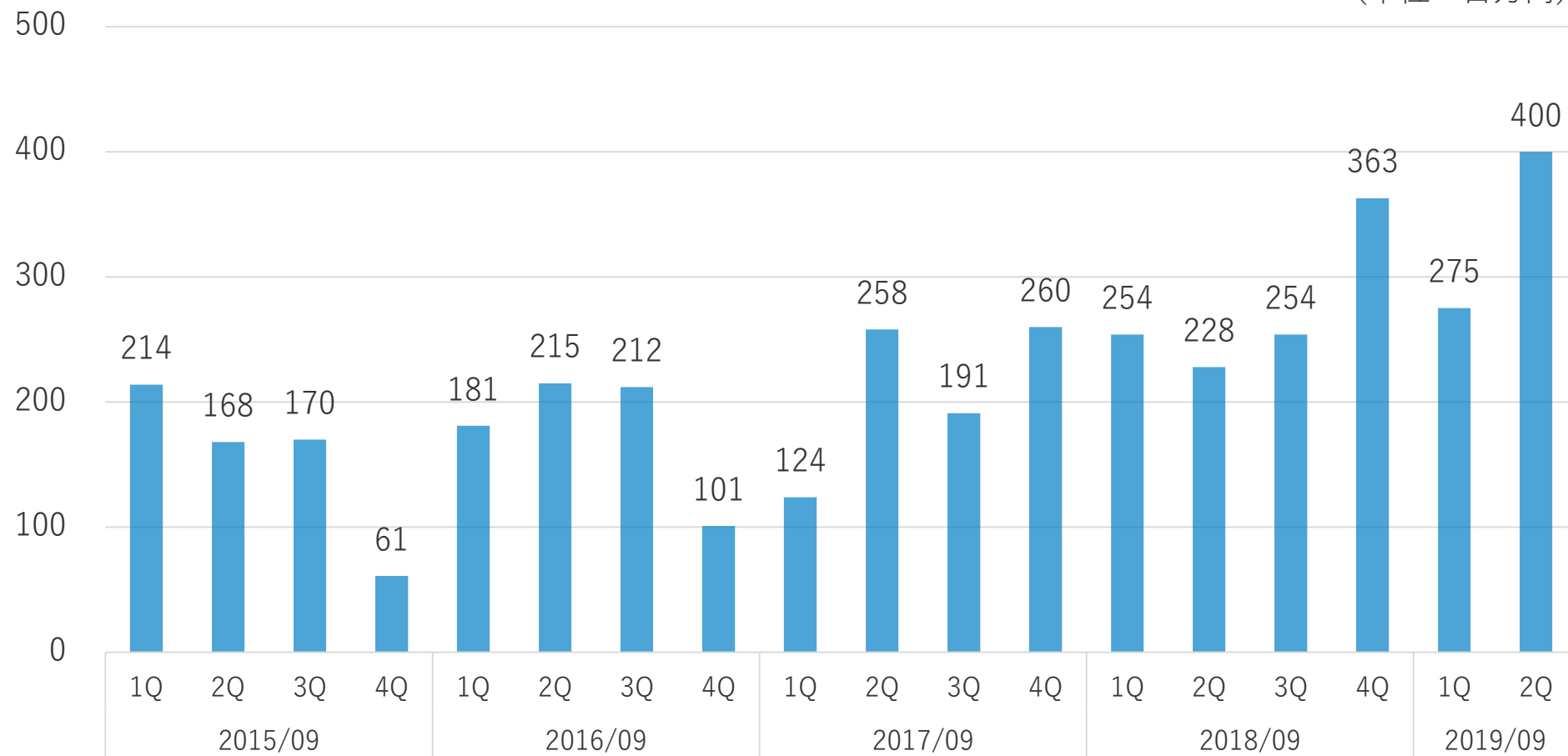
(単位：百万円)



業績：営業利益

- 新規事業向け積極投資を吸収しつつ前年同期比で増益を達成
- 売上増に伴い過去最高の四半期営業利益を更新

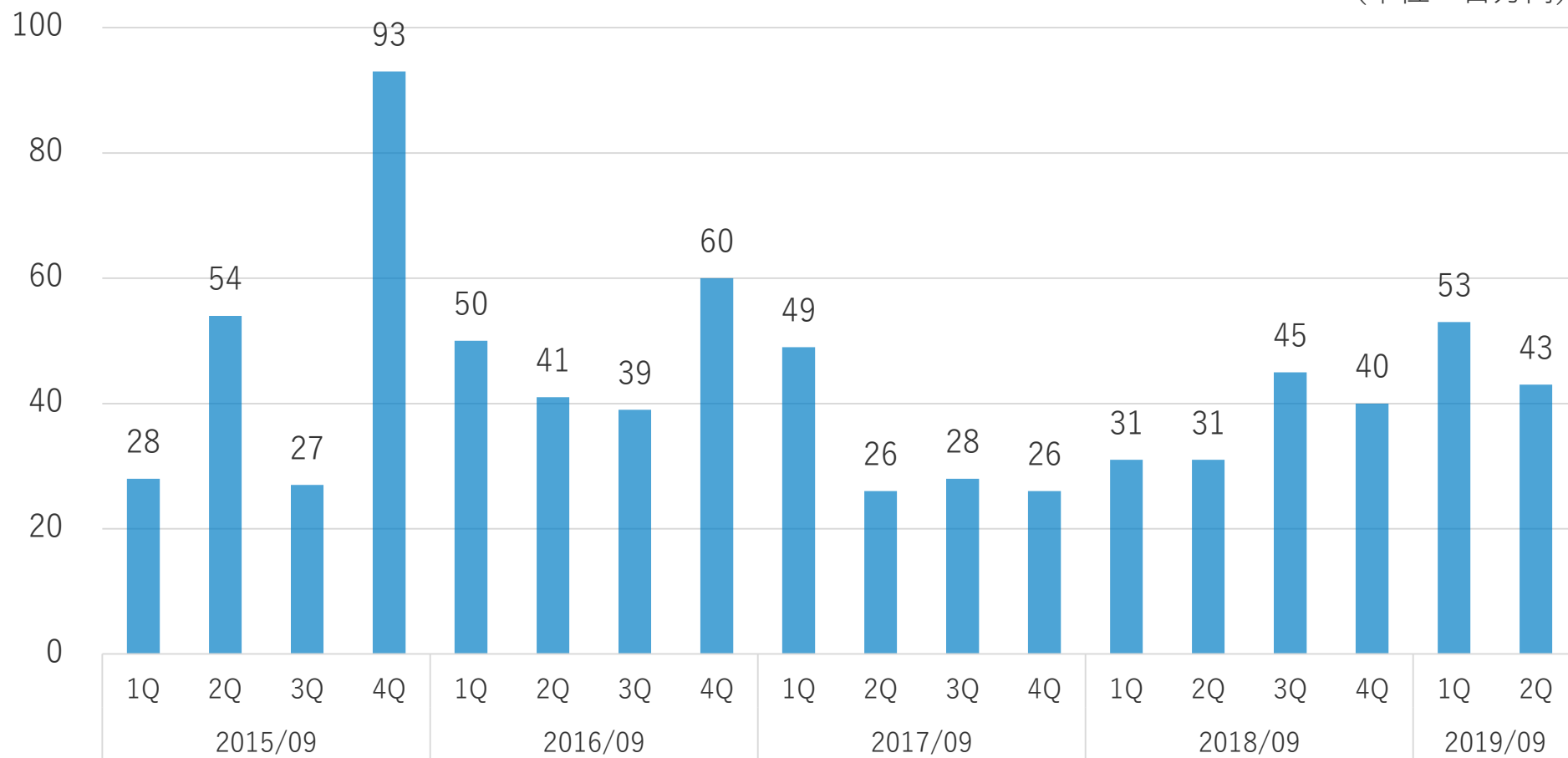
(単位：百万円)



業績：研究開発費

- SaaS事業等の新規事業向け研究開発を継続
- 人件費や外注費を中心に期初想定通り使用

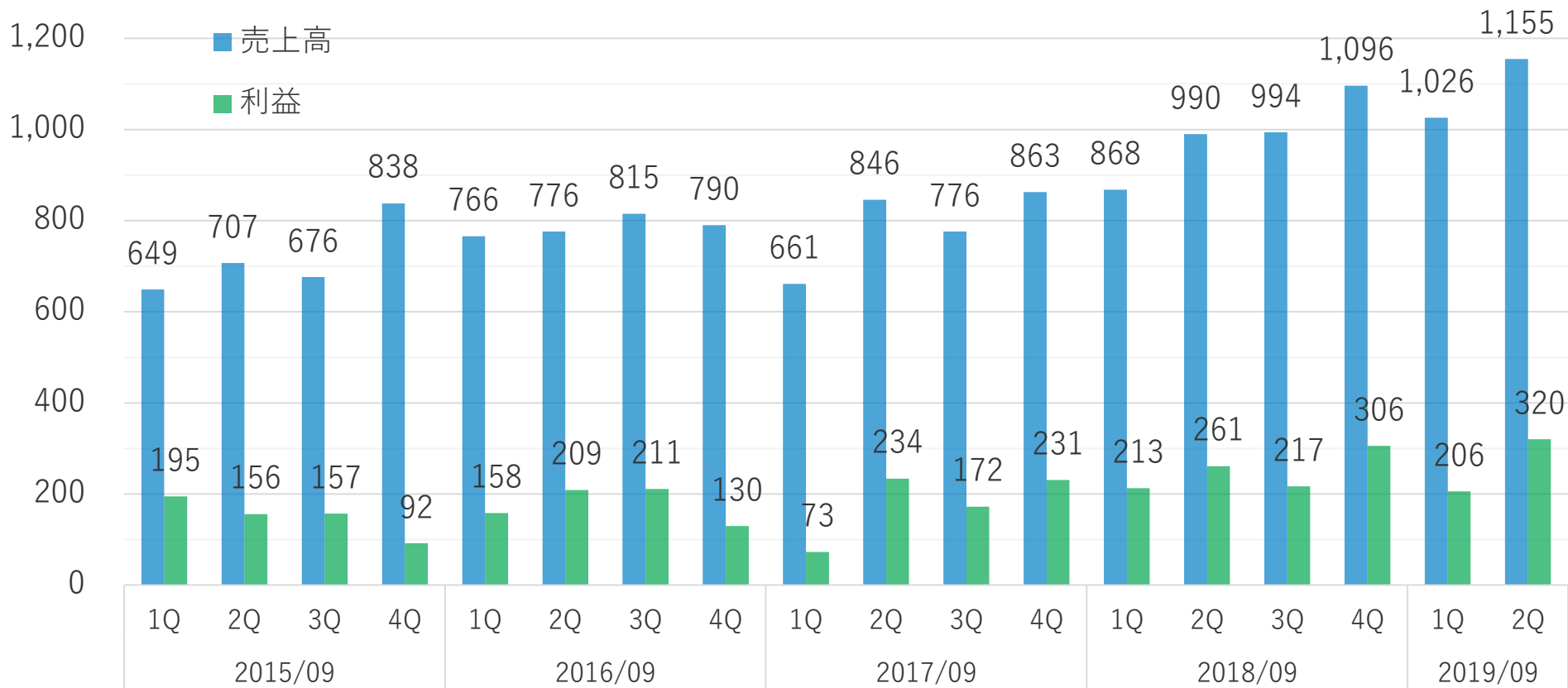
(単位：百万円)



業績：ソフトウェア・サービス事業

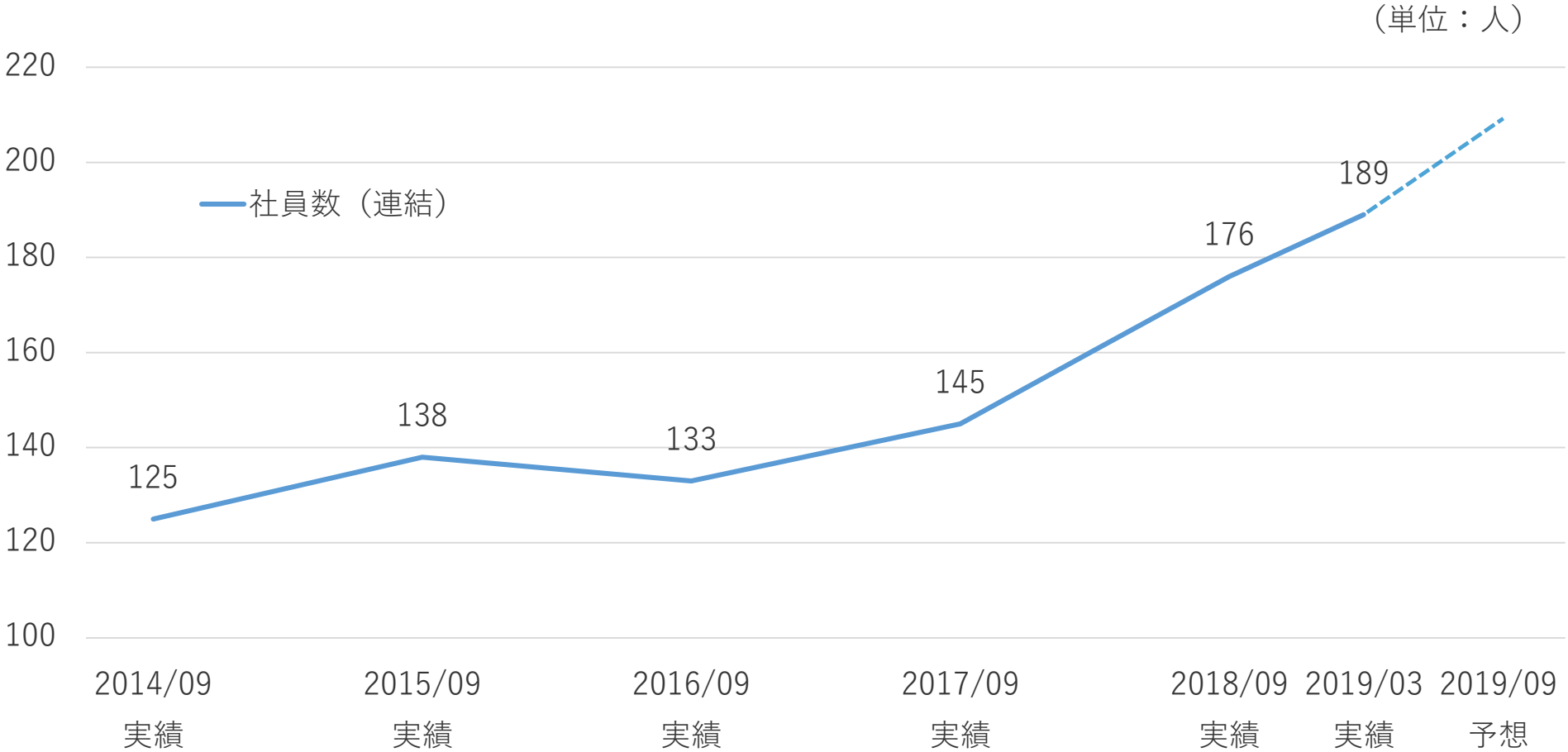
- プロジェクト規模の拡大を反映し、前年同期比で大きく増収
- 新規事業向け投資をこなしつつ前年同期比で増益も達成

(単位：百万円)



業績：社員数推移

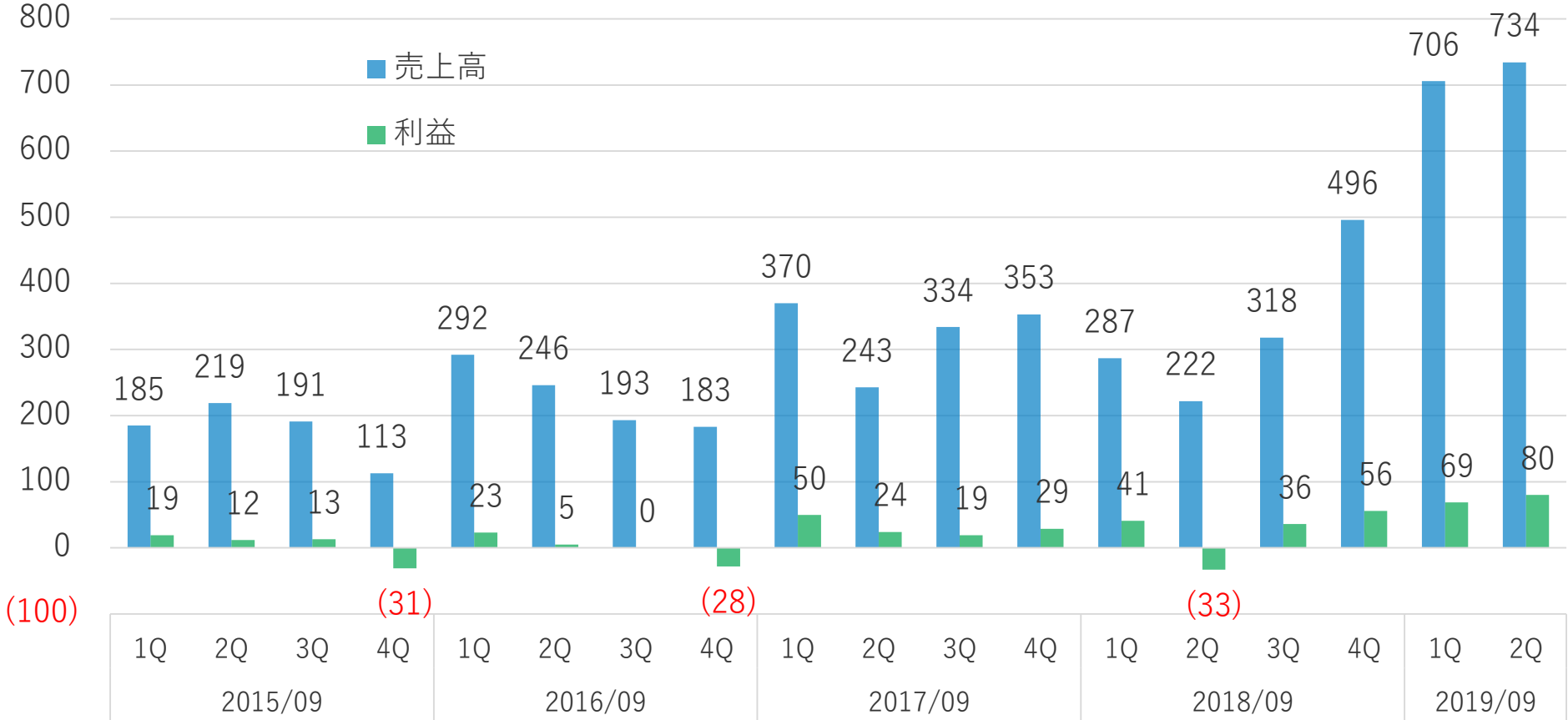
- 中途採用が進み上期末は社員数（連結）189名で着地
- 通期でも新卒を中心にエンジニア採用が順調に進み、社員数の増加を見込む



業績：ハードウェア基盤事業

- 画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- 画像処理向けストレージ・サーバのスポット案件が2Q累計で約7億円の売上となり、大幅増収をけん引

(単位：百万円)



目次

1. 会社紹介
2. 2019年9月期 第2四半期決算説明
3. 2019年9月期 通期業績予想

2019年9月期 通期業績予想サマリ

■ 全体

■ 上期の好調を受け通期業績予想を上方修正（4/24発表済）

- 売上高： **6,880百万円**（前期比 **+30.4%**）
- 営業利益： **1,226百万円**（前期比 **+11.4%**）
- 親会社株主に帰属する当期純利益： **807百万円**（前期比 **▲ 2.0%**）

■ 上期で上振れた利益は新規事業に積極投資

■ セグメント

■ ソフトウェア・サービス

- 自動運転関連を中心に既存事業による安定成長を実現
- 新規事業に積極投資し、**SaaS**等の新しい収益モデル構築を目指す
- 補助金を活用し、量子コンピュータ事業等の更なるシーズに投資

■ ハードウェア基盤

- 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- ソフトウェア開発と組み合わせたトータルソリューションを通じて、スポット案件を積極的に獲得

2019年9月期 通期業績予想（上方修正後）

2019年9月期 業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
2019年9月期 業績予想	6,880	1,226	1,225	807
2018年9月期 実績	5,275	1,100	1,113	823
増減率	+ 30.4%	+ 11.4%	+ 10.0%	▲2.0%

配当予想

	1株当たり 年間配当金	1株当たり 当期純利益	配当性向
2019年9月期 予想	7円	24円41銭	28.7%
2018年9月期 実績	7円	24円82銭	28.2%
2017年9月期 実績	25円	16円65銭	29.7%

※当社は2018年4月1日付で、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益については、2017年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 2018年9月期及び2019年9月期の配当金額は、分割後の株式数で算出しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の配当金額は、それぞれ35円であります。